

刊行に寄せて

1、著者との出会い

最初の出会いは会社のインフォーマル活動の会場であったと思う。

一言でいえば、大変、「爽やかな笑顔」が印象的であった。

その後、縁があり、一緒に仕事をするようになって第一印象のままであった。

2年間、毎日、顔を合わせ、会話し、そこには必ずと言っていいほど、著者口癖の「いいですね〜」と「爽やかな笑顔」があった。

その「爽やかさ」はどこから来るのか興味を持って接しているうちに、仕事以外の「変わった時間(?)の過ごし方」からではないかと気づいた。

どんな過ごし方なのか?

著者の1冊目『全力で突っ走れ! 蔵出し折乃笠部長ブログ』を読めば、なるほど「いいですね〜」と納得する。

今回は2冊目の作である。2冊目を読めば更に合点がいく。

つまり、オンとオフの使い分けが上手いのである。

2、「全力で歩き通せ! 折乃笠部長徒歩の旅」を読んで

著者によれば、「徒歩は手段。目的は修行することにより、自分を高めること」らしい。決めたルートをひたすら歩き、見聞し、そしてまた歩く。

ひたすら歩くことを通じて自分と向き合う時間が生まれるのではないかと思う。自分の内面を巡る時間を過ごしているのではないかとさえ思えてくる。

全体として、見たまま、思ったままの淡々とした文章が続くが、「葛飾区」の部分では一気に感情が高まってくる場面が印象的である。

やはり、故郷は訪れるものを包んでくれるらしい。包んでくれるというよりはむしろ、過去に過ごした思い出が蘇り、一時的に脳が支配されるのかもしれない。「矢切の渡し」まで登場して、著者の心情がいつそう盛り上がる場面である。著者にとって「心の風景」なのだろう。

自分で立てた目標を実行し、クリアするのは達成感があり、次のチャレンジに繋がる。

「東京23区探索徒歩達成! 23回で総距離数469キロ、2014年の目標達成!」

著者独特の感性で23区の評価をしているが、読者や地元の人々の評価と比較してどうだろうか? 願わくは、「たくさんの読者」が反論/賛同(?)して、著者と議論してほしいものである。

作者の「修行」のために毎回、送り迎えをしてくれる奥様がさりりとさりげなく挿入されているのも憎い配慮である。感謝してもしきれない気持ちにしみ出て、著者の愛妻家ぶりが垣間見える。迎えてもらってほっとする瞬間の息遣いまでが伝わってくる。

3、最後に

楽しい時間を過ごすことは心が穏やかになり、幸せな気分になれるのだとこの本を読めば実感することができる。

自分で決めたルートを歩き通した後のビールのおまさも伝わってくる。

幸せかどうかは他人が決めるものではなく、自分が決めるものだと思うものの、著者はつくづくと幸せな人だと思う。

「いいですね〜」

下成 誠

大型商用車メーカー元常務執行役員(折乃笠が部長の時の上司)